

長崎ほしくだより

No. 219
2013.3

発行 人 谷 川 和 啓
編集 人 古 場 場 むつ 美
購読 料 一 部 55 円

発行：社団法人 長崎県保育協会 長崎市茂里町3番24号 長崎県総合福祉センター 3F TEL.095-846-8871

生きる 強さと優しさ

あの日、あのとき

2011年3月11日。この日より午前保育。いつものように学期末の仕事をしていたそのときにあの地震がやってきました。預かりの子どもも10人を必死で守り、親もへお返しできたのは夜7時30分を回っていました。何が起きていたのか、どうすればいいのかなんて考えられない状態。その瞬間は本能で動いたように思います。

平成28年度スタート

4月。新学期のスタート。まず、子ども達の生活をどうするかの話し合いに始まりました。放射線対策（帽子、上着着用。マスク使用。出入り口に遮断シート）手洗いうがいの徹底。給食、牛乳の選択制。保育内容の改善（外遊び・砂遊びなし、自然物に触れない、畑の中止、園外保育の中止の現状）。外遊びの代用としての保育内容の工夫を毎日思案しました。



私はほんとうに子どものための行動をしているのか。避難しなくていいのか。と迷い、家族間の意見の食い違い、保護者同士の関係など人間関係が揺れたのもこの時期でした。

震災より 1年が過ぎて思うこと

夏休み。念願の表土除去や木々の伐採が行われ、空間放射線量が一気に少なくなりました。さあ、いよいよ2学期。大きな行事をどうしていかうかと職員会議。その話し合いが1学期とは、変化が・・・保育者の表情が明るくなり、意見が多くなりました。「子どもが喜ぶことをしたいよね」「どうしたらできるかな?」とできないことを嘆くのではなく、子どもにとって楽しい時間をどう保障するかに視点がいくようになりしました。



水と食料、ガソリンや石油をなんとか確保する毎日。いつまでこのような状態が続くのかの不安。そして原発事故。私達の生活は一瞬にして、変わってしまいました。

「じゃ、そこをドリームランドにしよう!!」など行事をこなせばいいかならず、工夫とアイデアがいつぱいになっていきました。

2年目突入

震災後の生活に慣れてきて、ふとこれでもいいのか、外に出ないことが普通になっていく現状に驚きもありました。子どもへの順応性の高さに感謝し、恐ろしくもなりました。

私の転機

2012年9月。ご縁あつて私は北九州の地で3か月間のケアや保育の勉強のため内地留学しました。言葉も空気も違う場での生活に戸惑いながらも、講義の内容は被災地の子どもや保護者の支援に必要な物ばかり。目からうろこの毎日に刺激を受けていました。留学中、震災の状況や保育の取り組みをお話する機会を頂きました。昨日まで知らない人が知人になる不思議。見ず知らずの私の震災の話に対し、真摯に受け止め何かしたいと行動を起こす人々。人は人の間で育つということ。支え合い、信じ合い、関わり合うものだと強く思いました。この新聞を書かせていただくのも、九州での講演がきっかけです。そう、人の関係性は、形や時間ではなく、その人同士の心の距離なので



福島めばえ幼稚園 主任
伊藤 ちはる
★プロフェッショナル★
公益財団法人 幼少年教育研究所 所員(発達と保育研究)
日本保育学会 学会員



東日本大震災から間もなく2年が経とうとしている。あの未曾有の災害から遠く離れた長崎に住む私達にとって学んだことは何だったのだろうか。被災地ではない。まだ避難所生活を余儀なくされるなど完全復興にはまだまだ時間がかかりそうなのに、九州では何事もなかったかのように普通に時間が過ぎて行っているのが現状だ。▼平成17年に地震が少ない九州でも福岡県西方沖地震があった。警固断層沿いに延びた玄界灘が震源地となり、長崎県各地でも非常に強い揺れを感じた地震は横ずれ型だったので、海底を震源地としながらも幸い津波は発生しなかった。ずれた距離は60cm程度といわれているが福岡市内中心部を南北に延びる活断層を境に右側と左側では建物の被害に大きな差が出ていたとのことだ。▼一方、長崎県周辺には震源域のある海溝型地震はないと言われているが、島原半島から橋樑まで延びる雲仙断層群があり太平洋沖で予想される南海トラフ沿いの巨大地震があった場合、連鎖被害が及ぶ可能性も指摘されている。大正11年の島原半島の地震では半島を中心に大きな被害が生じ、また昭和59年には千々石町で群発地震があり建物の一部破損や石垣破壊などの被害が過去には起きている。▼東日本大震災では小学校等、施設によって被害が異なるなどの問題点が浮き彫りになり、震災後は県内各園でも設備安全点検見直しや避難マシユアルの再考など、どこも施設でも対応している。しかし未発見や未調査の活断層などが県内にも存在していることを考えると安全対策は過剰な位にならないと非常時に役に立たないので、想定外という言葉が無いように努力していきたい。(M)

長崎ほいくだより

発行：社団法人 長崎県保育協会 長崎市茂里町3番24号 長崎県総合福祉センター 3F TEL.095-846-8871

購読料 一部 55円

続きは、お買い求めいただきご購読下さい。
お問い合わせは、保育所(園)または長崎県保育協会までお願い致します。

2ページ目以降の内容をご紹介します

■ つれづれ

園長先生等のリレー式コラムです。保育に対する思いや考えなどを文章にしています。

■ 保育のひろば

● 地域との交流

各保育園の近隣の交流状況など画像を添えて紹介します。

● ランチタイム

給食やおやつ、食育等の取り組みを情報提供致します。

● 保育園めぐり

県下の保育園を地区別に順番で紹介しています。

■ すこやかなそだち

保育の専門家が、プロの視点で子育てに関する様々なテーマに基づいて書き下ろす連載コーナーです。

■ 読者のひろば

子育ての思いやエピソードなど地区別の保護者に書いていただくコーナーです。

■ であい

保育士に保育に対する質問を投げかけそれに答えるコーナーです。

■ ZOO夢イン 家族のお出かけスポット情報

編集部一押しの地元のお出かけ情報です。家族向きのお出かけに参考になります。

■ つぶやき

■ わんぱく写真館

子ども達の日頃の保育園における活発な活動の写真を掲載しています。

■ え?!絵本

子ども向けのおすすめ絵本です。わかりやすく解説しています。